伯林電報　自明治卅七年二月至五月

日露戰役史料　第十卷

早稲田大學

特
リ伊5
2107
10

宮城縣図書館

明治三十七年二月分

伯林電報集

御
リ5
2107
10

獨領西南阿弗利加

二月一日

獨逸砲艦ハビヒト號ハ獨領西南阿弗利加スウアコプムンドより左の如き情報を送れり

オカバンドの戰に於て鉄道書口ツク、農民クーン、スポツクカムプの三人戰死せり

オルマンは一月二十七日ニグロー人の大部隊に依りて攻撃さるるも撃退をふることを得たり

オトシムビーグよりは更に何等の報なし多分包囲さるゝ居ればふものなるべし

獨逸と日露事件

露国と軍艦買入

降雨減少したるを以てカリジフに於て鉄道修築工事初まる通行中なり

獨逸に於て露兵に軍用品を供給し居りたりとの説未国新聞之を傳ふるや偏敦デーリー メール紙掲ぐる此説は公然無根なりと宣言されたり獨逸の中立は日露両国に対して更に其好意の差を設くることとなり獨逸巡洋艦ハンサ號の旅順を訪れたる況して政治上の意味を有せるものにあらざる

佛国の造船所より露国に種々の申出を為したるものなり露国政府はこれを拒絶せり露国、葡萄牙に対し其軍艦若干度の買入を申出でたりとの説あるも虚聞なり

白耳義王の帰国

独領政治の停滞

白耳義のレオポルド王その連橋に頗る満足を表して既に伯林を出発せり両主権者の間に更に政治上の快約行はれたるものとなり

二月二日

獨領南西阿弗利加なるスワコプムントより の報道に曰くボンデルツワルトなる黒人種族

は殖民地桂逸軍に降参したりと

是米よりの報道に所謂桂逸は義團と援けんが為の軍用品及び基だしきに至りては軍隊をも以て旅順口に送遣したりとの無智なる説に対し桂逸官吏は辞を極めて辯駁したり

桂逸巡詳艦ハンザ號は善通の役務を以て一月二十日より同三十一日まで旅順にありき

二月三日

義團の讓與したる日本への回答案文佛、英、米、

の諸國へ發せられたりとのことアーグア通信（佛國通信社）之を報ずるも桂逸は未だ曾て斯の如き通告に接したることなし依りて桂逸は他の諸國が日本に其勢力を用ひんとする運動に対し未だ為すべき道を有せず

桂領西南阿非利加殖民地總督ロイトヴアイン大佐よりの報に據れば其南方境界に於けるボンデルツヴアルト人は其武器を提して投降し旦つ首謀者を引渡し又その土地を桂逸に委附せりロイトヴアイン大佐はノロートを經てスヴアコップムンドに向け行進中にして二月五

ブルゲーリヤと獨逸

獨領東阿弗利加境界

日こハ同地に到着の者なり到着の上は殖民地北方の地を回復せらるゝ得べしと云ふ

獨逸に於てハ最早此上の援軍を阿弗利加に送せんとするの意向なり

敵兵既にオトイムビングより退却せり

コンゴー自由国と獨領東阿弗利加間のキウー湖境界問題はしオポルド王の伯林滞在中に於て協定さるゝことなりし科学上の精密なる境界調査未だ定まるに至らざるを以てなり

ブルゲーリアの王太子ボーリス一月廿一日（

日本の孤立と米独

夜国華と同じき非文明歴の一月十八日）をして其満十年に達し同日露獨両国の皇帝より鄭重なる祝賀を受けたり

二月四日

仏国アーヴア通信の華盛頓通信に日本の精神的孤立を報ずるは眞ならず巴里に於てさう同地にて既に知られたる露国の譲歩は日本に取り不満足なる可きを恐るゝもの多し而して米国並に獨逸は共に極東に於て日本若しくは露国に利益一若しくは反対せるが為に何れの

独帝の海上旅行

国とも共同運動を居たと拒絶したり

独帝ウイルヘルム陛下は来る三月若しくは四月地中海に於て海上旅行を試むべきの計畫なり

独領阿弗利加の騒乱

二月五日

独領南西阿弗利加より左の報道あり曰く去月十四日ワーテルバルグに於て独民同盟官吏コエプチル及び該地の事情に通暁せるワーテルメーエルの両氏へしは土種族の為めに殺害せらる

ウサンドハツクは未だ黒奴の襲撃を受けざる鉄道並に電信は開通せり然れども オトチンピンゲ及びゴバリスは猶包囲の中にあり

（オシムビングエ）？

本日阿弗利加に向け独逸より更に援兵を派遣せらるべく独逸皇帝は右派遣部隊に向って自身に告別の辞を賜はる筈なり

陸軍仕長増加案否決

独逸帝国議会の豫算委員会へ政府提出に係る陸軍仕長増加案を否決せり

独領阿弗利加の情報

二月四日

独領南西阿弗利加より来る報道に曰く白人

ンドフツクをゞオカハンじヤは援けんへしロ族は逸逃しつゝあり而して叛乱中、近傍に在留せる英国人の始終の行動は甚だ感謝すべきものなり

二月六日

露国商業電報社の聖彼得堡より報道する所に曰くローゼン公使は日本政府に交付せんが為め本日アレキシーフ總督より露国の覚書並に其の命令を受けたり右の覚書は甚だ平和的のものにして公使は本日之を日本政府に交付可く而して聖彼得堡に於ては日本は無條件にて之を受諾すべしと期望せらる

露国の由来

樺太の叛乱

樺太南阿弗利加の一部の族は殖民者官吏かンしヨルン及びロウツの二人を虐殺したり

二月七日

聖彼得堡よりの報に據れば露国外務大臣ラムスドルフ伯は日本が露国と外交上の関係を破りたることを以て列国に通告する回章を發せりと云ふ

日露破綻と獨逸

二月八日

日露両国間関係の破綻は伯林に驚愕を與へたり　独逸も日本の表明したる忍耐に一般に満足の意を認さん　獨逸は両国間に存する良好なる国交際の故を以て厳正中立を宣言せり　軍人社会及び其他に於ては日本に満幅の同情を表し居り

露帝は明後日モスコーに於て露国人民に與ふる宣言を發すべし

英国調停を試みんとするの風説に関しては今

英国の宣言

獨領西南阿非利加

何等の確聞なる處なしと雖ども仏国も亦英国と共にこれを試みんが何事をも為さざるべし

獨領西南阿非利加に於ては大戦闘なし　殖民地軍隊のフランケ中尉一隊の兵を率ひてオマルに入り敵軍に大損害を與へたり　ツサエルと称せらるべしロ族の頭領戦死したるもの、如しとなんどオマルは常に敵の囲中にあり

獨逸巡洋艦ハビヒトより發したる陸戦隊は殖民地軍隊のフォン　ウインクレル中尉に率ひられ　ウインクレル中尉に率ひられ　オマルに進發を命ぜらるるなり

日露戦争と列国

本日の損害は百三十七名にして内三十二名は戰死四十七名は虐殺を受けたるものなり

二月九日

井上日本公使は昨日獨逸政府に対し日本の露国と外交関係を断つに至りし主旨に関し宣言を為したる獨逸政府は之を快く受諾したる併し将来の發展に対しては中立諸国は全く沈默を守り且つ日本に対する調和及び干渉に對する試験的行動は未だ之を云ふものなし

満洲以外の支那領土に於て難題起る可き場合に於ては列国の間に嫌疑起る可し

清国の祈祷中止

露帝はモスコー府行は延期せらるべしなり

露国の戰費

露西亞は伯林の銀行團體なるプロイセンコンソルチユームに於て三分利付公債七千萬マルクを發行したり

獨逸新聞紙と日露戰爭

二月十一日

多數の獨逸新聞紙は中立の語義を以て論評し殊に急激党の新聞紙は日本に賛成を表し宗教

日露戦争と列国

派の重しなる新聞ケルニツシエフオルクスツ
アイツングは裏だ銳く露国に反対なり要もるに日本の執りたる豪睨なる行動は之を賞賛せるものの如し

各国の首府より来る諸報に據れば皆中立の行動を執り居れる趣なり中に内閣大臣に於て之が宣言を発したるものなり

二月十三日

日露戦争と清国

仏国新聞紙は日露戦の發端を以て国際法の違反なりと唱ふるものなり

樗逸新聞紙は一層日本に対して友誼的なり

樗逸の半官的記事は千九百一年三月十六日帝国議會に於て宰相ビユーロー伯の発したる演說を回憶せしめんとを謀り同日は即ち清国遠征費の議決たる日にして伯は樗逸と列国との関係につき叙說せる所なり遂に日本に言及して即ち左の言を発せり曰く我帝国は此智能拔群なる国民が極東に於ける其武器と智力との成効によりて一大強国たるの地歩を獲得したるを承認せざるべからず云々

清国中立の事と国民

国民は商賤に属して樗逸は其

日露戰爭と歐洲市場

平和と長久ならしめんが為め満洲を以て其除外地と為さしとて頻成せり

戰爭の破裂は巴里、伯林、聖彼得堡、倫敦、維也納等歐洲各市場に甚しき恐慌を来せり

為めに大損害を蒙りたるものなり露國公債暴落頻なり昨日来は稍々持直したる状なれども

別けて聖彼得堡の恐慌一時頗る甚しかりし

山海関と露仏

山海関よりの報に據れば露國の同地を撤退せるに際して仏國人同地に於ける全責任を負擔せるとなり郵便局の管理を行ふに止り

なりと云ふ

墺國皇帝不豫

墺國皇帝は其宿病腰痛に悩み居り仍一危険の憂なり

二月十四日

獨逸軍艦の好意

獨逸軍艦ハンザは日露両司令官の諾を得て旅順に若干の婦人小児を救ひ出せり

別報によれば旅順にある獨逸人ハンザは旅順に向ひたるも

露報を以て請求され同地に向ひたるものこして陸上の通路既に遮断されたるを

以て之を同艦の港内に碇泊すること五時間に満たざるに其間に十三人の婦人（獨二、日三、英五、露三、）清一五人の十児及び若干の男子（獨四、墺一、伊一、）を救出し青島に回航したるなりと云ふ

獨逸巡洋艦ヲーチスは仁川に向へり單に中立の範囲内に於て通信の目的を行はんとせるに止まる

獨逸の行ひべき中立宣言を目下立案中にして聊か其期に後れたるも此事獨逸に先例なく従つて之が形式を帝室顧問官に諮て初めて制定せざるべからざるに依る

獨逸の中立宣言

獨逸艦隊の仁川行

コーベンハーゲンよりの報に依れば丁抹海面の中立破壊されを防護せんが為め因地に於ては軍備を行ふ筈なりと云ふ

丁抹の厳正中立

獨逸艦隊の中立

獨逸のボールチック、北海周遊艦隊に於ては通過されたることなり

獨逸政府の従軍武官

日本政府の許諾を得て獨逸將校フエスニル少佐、ホフマン大尉の両人は既に戦地に向け出

樗逸宰相の演説

樗逸貴族の死去

樗逸中立の諭達

度せり

樗逸宰相ビエーロー伯ハ議会ニ於テ演説一読外国トノ間ニ現在セル通商條約ハ之ヲ存続セルノ必要ナルヲ細述シ即チ説ヒテ曰ク多分現在通商條約ハ一部づゝ之ヲ議会ニ提出セラルベシトナク全般ニシテ提出サルベシト

ビエフクシル伯ハカメルーン猶民地ニ於テ死去セリ

樗逸政府の機関新聞ライヒスアンツアイゲル

清国中立問題と樗国

の報ずる所ニ依レハ既ニ戦時の状態ニあるを以テ樗逸帝国又ハ其猶民地又ハ其他外国ニある一切の樗逸臣民ハ樗逸の中立に抵抗する何等の行動をも為さゞる旨警告さるゝ右諭達の趣ハ亦両帝国の政府ニ通告さるゝたる筈なりと云へり

二月十五日

米国政府ハ清国の中立ニ関する提議を度ーたるが樗逸ハ左の條件を以テ之ニ同意セベーー

第一、満洲ハ右中立地域外なるべきこと

第二、西文戰國の軍事的行動ニ不公平の妨害を與ふべからざること

第三、露國ハ黑海艦隊の通航に ダーダネルスの開放を要求せざるべきこと

露國墺遙に対して同盟の提議を行なたりと云ふ又称して盟約を重ねんとの提議を行なたりと云ふ

露國墺遙西國の関係

墺遙の露國從事武備

と云ふ共ニ事実ニ ちらむ 又露國勅令を發して穀物の輸出を禁止したりと云ふ共ニ虚説なり

露國政府ニして之を許容したりは テツト

未墺二國の交際

ウ、ラウエンスタインの西ヶ佐戰死ニ向ケ發遣さるゝ筈なり

紐育ニ從さるゝたるリンコーン祭ニ於て墺遙公使スペックステルンブルヒ男は一場の演説を試みヴイルヘルム皇帝ルーズヴエルト大統領とを相對比して思想の同一なるは即ち兩國をして益々其結合を固くらしむべく又兩國の平和的進歩ニ対して最良の保證を與ふるものなりと云ふ又その席ニ於て米國海軍卿ライリアムムーチー氏ハ米國ハ中立を保持せんとを欲する如何なる事情ありて米國の平和は迫害

榴弾と日露負傷兵

さるべからざるなりと云

二月十六日

榴弾皇帝に横濱なる榴弾海員病院の寢台こして使用中ならざるものいえりと日露両国負傷兵の為の使用をべきことに同意したり尚ほ膠州湾が病院も同上の目的に向りて使用せらるる妨げなし

露国日本を誣ふ

露国より来報に依れば日本軍艦は榴弾砲艦ハンザ號を此程婦女子を収容せんが為め旅順

清国の中立問題

ベルカン半島

口に赴きし時之を砲撃したりと然れども伯林に於ては此風説に信を更に知る所なし

満洲並に朝鮮を除きての清国中立問題に関する露議は進行しつゝあり右の提案は列国の為めに好情を以て迎へられ尚ほ交戦中の両国も多分同意をるならん

バルカン半島の形勢は段々陰悪となりつゝあり土耳其ブリゲーリア両国は益々軍備を整へ居り而して土耳其は露国が東洋に於て永久に屏息を可きを恐る

東清鉄道の停運

仏墨條約

墨国ハ西比利亜鉄道以往ニ於ける墨ての運輸を停止したり

仏国内閣会議ハ外務卿ラムカンセ氏ニ授くるニ若し遅羅の国境ニ在る郡市シヤンタブン撤退問題ニして仏国ニ取り良好なる作法を以て決定せらるるニ於ていハ遅羅と條約を締結せる

の権能を以てしたり

二月十七日

ポーランド再興の計畫

清国中立問題の成立

独逸皇帝の旅行

和蘭の中立防衛

ポーランド王国再興の目的を以て墨国ニ諸政せんとせるの同盟ありワルソー府ニ於て發覚せり大謀叛人の逮捕ハ頗る手廣くしムベルヒ（墨国ガリシアの）にまで及ぶ

満州を除きての清国中立問題ハ以て各国の兼認せる所となり英墨両国も亦之ニ同意せ

ヴィルヘルム皇帝ハ今ニ至りても尚ほ地中海旅行の素志を廃せんとするの意なり

和蘭ハ其中立を防護せんが為め海面ニ於て之

ボ準備を虞せり

樺領西南阿部利加

樺領西南阿部利加より〳〵し口族に対して殲滅を試み重大なる成效を得たるもの報せり

樺逸の山東僧正

山東僧正故アンフェル氏の後任として新僧正を選任せんとせるの計畫なり牧師ピーペル氏或ハ之に任ぜらるべし

露国内の非国戦術

二月十六日

露国の急激党新聞紙に開戰の事に関して皇帝及び政府に対し甚だしき責誚を弄し居り

露国は セントルイス博覧会に賛同せんとせるの意を廃せり

露国と米国行道会

露国の注意と樺逸

露国の一新聞記者伯林の外務者を訪問して今回戰爭の發端に関しては日本に大に責むべきものあるを鳴らせんとしたるに外務者は之を承認せるとして然ハ之を承認せるは日本に斯くの如き説ハ之を承認せるとして然ハ日つ更に等しき味なりと考せり

樺逸の中立違反説

ブーリー メールの筆載せるハムブルヒ信通

に據れば露國海軍樹逸よりポーハタフク運河
通航の許諾を得たりとせれども是は虚報なり

樹逸の保守党計画氏は露国との通商條約は宜
しくこれを廃棄すべしと称す

樹逸の保守党計画

山東僧正新任説

牧師ピーペル氏故アンフェン僧正の後任として山東僧正に奉ぜらるべしとの説は尚早に過ぐ右問題は未定に属せり

二月十九日

露国大蔵大臣の更迭

露国大蔵大臣プレスケ氏は病気に罹り辞職したるを以て元老院議官兼侍従ココウツオウ氏その後任に補せられたり

露国の重要会議

露国帝国会議召集せらる

二月二十一日

クロパトキン将軍

クロパトキン将軍は其陸軍大臣の職を辞し満州軍団司令長官に任せられたり

露国鉄道列車の脱線

バイカル湖岸に於て露国の軍隊輸送列車大風

エムマ號事件と
拘逸

雪の為め脱船し兵卒若干名居りし負傷せり他
し交通は長崎や田後に及べり

横濱に於て捕獲さるゝ後釋放さるゝたる拘逸商船
エムマ號に対する日本の態度は作林に於て毫
も間然する處なし

拘逸運河と露國

拘逸のポールチック運河は戦争中依然露國軍
艦に其通航を許さゞりしも又拘逸の諸港湾に
於て決して露國の艦船に特別の便宜を與へる
ことなし然るも此点義に反せるやう佛國に於
て報せらるゝも虚偽なり

駐英露國大使の帰国

近東事件の現勢

駐英露國大使ベンケンドルフ伯はエドワード
皇帝と自分との間に於ける友誼の証言を齎し
て聖彼得堡に向ひ居れり

ブルゲーリアは其戦備を行ひ居るにも関せ
ず墺露二國に対する其関係を改善せり露國は
其バルカンに於ける政治上の勢力を強めんと
するものにならむ

政治市場の不振

政治の各東京所は商況引續き不振の状にあり

獨領西南阿弗利加南部の一橋は既に領定せり
軍隊示方の引揚げの途に上る

巴里市の大火

巴里セバストポール街の一工場に大火あり十一名の即死者、十四名の負傷者を出せり

二月二十二日

ツェツク人の排英運動

ボヒーミヤのブラーグ府に於て贊英主義の示威運動獨逸領事館の門前に行はれたり右はツエツク人が獨逸を以て日本に加担し露国に反対するものなりと誤解し居れるに基くものな

モスコーの示威運動

獨逸露探の説

り

露国モスコー府に於ても亦獨逸領事館の門前に示威運動あり領事は之に対し獨逸は露国に贊成をるものにあらざる又日本を非難せるものにあらざる旨を辯明せんが為め之に應接したるのみ其他の流言は無根なり

デーリー エキスプレスの報ずる所によれば日本艦隊の運動は獨逸巡洋艦書く之を偵知したりと云へども是は唐めこれる所なりとも云へども是は唐めこれる所なりと云へる讒誣なり軍事的行動の計策中なる海

而して於て獨逸軍艦の運動いはては本軍人の兼
誘を怪原ふものなり

フイガロは獨逸と露國又は英國との間に絶東
問題に関して秘密條約存立し居ることを称
せるも毫も無根の作言なり獨逸をして中立を保
護せんとの為の軍事的行動を執らんとすと云ふ
も亦誇大の説なり曾て一兵の動員されたること
となし

二月二十五日

伯林に於て半官的に宣言せらるる處に依れば
獨逸は彼の佛國新聞の虚報とは全く反対にて
露國との間に秘密協約を有せず又其他の秘密
的企畫にも加入したることなしと云ふ
清國に於ける獨逸の関係に対して国会議員社
會の反対は漸次增大しつゝあり而して獨逸の
中立の嚴正なる事は今や倫敦ではリーメール
に於ても認識せらるるに至れり
獨逸人は一般に贊成は本的にして本の軍事的
成効は尊敬と嘆賞とを惹起せしなり
而して一つの重要は獨逸がバグダッド鉄道に関
して露國と與へうるべき讓歩とは露國を贊

伊国の辯明

米政の黙契

而しつゝあることゝて此報は他の報と同
様虚偽なり

伊太利は如言以て同国が軍事的準備を為
りとの説を拒否しつゝあり

殊に仏国と米国との間に明に黙契ありて戦
争と東部亜細亜及び恐らくはバルカンに局限
せしめんとの故を以て右以上の蔓延の起らざる可
きは言を俟たざるなり

二月二十五日

伊国の禁標撤廃

東部間電線

パナマ運河條約

風説ありたる如く伊国政府は禁標を以て其絶
東方面に於ける伊国の大海軍港と唱さんが為
めの防備の横張貴を以て一千萬フランの支
出を要求せんとす

北京、恰克圖（西比利亜と蒙古との境バイカ
ル湖附近）間電線開通せり

米国とパナマ共和国との間に締結されたる パ
ナマ運河條約は華盛頓府に於て批准されたり

バンカン事件

伊国の通牒と桂侯の振り

君士坦丁堡ニ於ケル「ブルゲーリア」の外交事務官ナチヤヅイツチ氏ハ平和的性質の談言を土耳其政府ニ呈セリ

二月二十五日

日本ガ朝鮮の中立を破却したるを愁訴せう義国の通牒ハ今日迄の處桂侯外務者に依りて官文書として受諾せられ政治上何等重要の意義なき一片の報告とせらる

桂侯は近々地中海旅行の途に上る可くアントワープに於て禮儀上白耳義国王と會見せべし

バンカン事件

バンカンの形勢は土耳其、ブルゲーリア間に黙契成立したる為め従来に比し良好となり

マセドーニア叛徒巨魁サラフオウの運命は日に否なり

伊国外務大臣チツトニー氏ハ同国々会に於て宣言して「バンカン」事件に付き伊国が墺露両国と接近したるを暗示せり

二月二十六日

伊藤大使の帰国

美国駐劄伊国大使カムボン氏は巴里に向つて出発せんとし同露国大使ベンケンドルフ伯亦既に彼得堡に向て出発したり　維也納新聞ノイエ　フライエ　プレッセは之を以て仲裁の企図なるものなを示すとなせり

露国の非を鳴らす

美国政府は倫敦ミュージック　ホールに於て僧さんとしたる非露西亜示威運動を禁止せり

露国借債の否定

露国が借債を希望せるとの新聞紙上の風説は事実にあらずと云へり

不幸なる露国

二月二十八日

倫敦デーリー、メールんの報ずる所に據れば露帝並に外相ラムスドルフ伯は日本に對する政策に関し倫敦に於けるスラブ人種統一主義の運動者なるノヴガコツフ及びウエセリツキの両人に誤られたるものなりとて

西藏問題英露交渉

美国外相ランスダウン侯は英国が西藏の境界を劃定せる後露国と協定を遂げんとしつゝある旨上院に於て演説したり

維廉陛下は北獨ロイド會社の汽船ケルニッシュ
アルベルト號にて地中海巡航の途に就うるべ
し今回の御旅行は政治上とは全く無関係なり
子ープルスにて御料の快速船ホーヘンツウオ
レン號に御乗象の最又伊國皇帝との會見は伊
帝より奏見を希望せられたる場合に於て始め
て之を行はせうるべし今回の御旅行は數週間
に亘るべく快々の海岸にも立寄らるべし

維廉陛下は山東鉄道の重役に親電を賜はり同
鉄道が今回初めて濟南迄通過したる趣聞及さ

れ隨て滿足に思召さる旨を傳へられ併せて
重役等の不屈なる勤勞の成功を祝賀せられた
り

露遼皇第ヘンリー親王の御末子にて同下くへ
ンリーとは去る
は本年四歳にて薨去せられ
た

二月二十九日

日韓両國の間に締結せられたる條約に関する
議定伯林に達したるを之に對する取消出でず

伊藤侯約調印

ナフプ恩領事帰任

伊藤侯程変更

伊藤通商條約は明一日調印せらるべし

上海駐屯伊藤恩領事ナフプ氏は近々帰任の筈なり

伊藤皇帝のアンウェルプ訪問及び白耳義王国との會見は稍疑はしくなりぬ其理由は皇帝の乗船なる北伊ロイド會社の汽船ケルニフヒ、アルベルト號はカアニヴアル祭の當日アンウエルプに到着せべきを以てなり

アルバニア問題

太公の病気

過日来墺伊両国の新聞は巴爾幹の紛擾再発したる場合に於けるアルバニアの處分に関し争論中なりしが此争論は今や全く止めり

伊藤聯邦バアデンのフレデリック太公は胃痛の為め目下病床に在り

明治三十七年三月分

伯林電報集

獨領阿弗利加の騒乱

三月一日

西阿弗利加の獨領殖民地カメルウンの山間ニ於テ土民蜂起シ西北カメルウン商會の建物ハ破壊セラレ店員三名殺害セラレタリ之ニ対シ懲罰的遠征隊ハ既ニクロス河ニ達シタリ獨領南阿弗利加なるオマルルに近くヘレロス種族ハ防禦工事を施せる地点ハフランケ大尉の指揮せる殖民兵一箇中隊の倍ヲ十時間の戦闘の後攻略セラレタリシエルフエ大尉ハ之ニ死シ外ニ八名の負傷者ヲ出シテヘレロ

獨逸皇族の葬儀

露國戦時規則の發布

貝加爾氷上鉄道の工事

又種族は既に退却し二千五百頭の家畜は獨逸軍の有に帰せり

獨逸皇弟ヘンリー親王の伊太子なる伊方の葬儀にキールに於て執行はれ維廉陛下も之に參列せられたり

露國は中立國船舶並に戦時禁制品に関する諸規則を發布したり

貝加爾氷上鉄道は既に鉄軌の敷設を終りぬ

佛國大統領の伊國行

美國の新特権

獨伊の交情

佛國大統領ルーベー氏は四月を以て羅馬及びナープルスに旅行を試むべしと発表せられたり併し羅馬法王への訪問は之なるべし

美國は波斯國に於て新に鑛業上の特権を得たり

獨逸、伊太利間に新に通商條約の締結せられたるに付き獨逸皇帝ウイルヘルム陛下と伊國皇帝エマニユエル陛下獨逸宰相ビユーロー伯と伊國外務大臣チツトニー氏とは間に友誼的電報交換せられたり

佛國閣員の信任投票

日本の勝利と米國

巴里よりの報道に依れば海軍計畫に関する追加予算議院に於て審議せらるゝ時内閣議長コムベー海軍卿ペルタンの両氏は其信任投票を要求せんとす

三月二日

日本海軍の奮したる大成功に鑑み米國海軍部内に於ては其諸軍艦に新式水雷発射管を備へるに決せり但し詳細は其東洋艦隊司令長官エグアンス中將のケンタッキーに駕し香港より帰りたる後に至りて決せらるゝ筈なり

ベルカン事件

土耳其ブルガーリア間の境界交際委員は土耳其帝の許に提出されたる其批准を仰ぐことゝ成れりマセドーニア憲兵に関する商議亦結了し其成案土耳其政府に提出されたる各國係者の希望に従ひアンベーニアには改革を施行せざる事となる

米國捷報と獨逸

米國のエグアンス中將は清國より蘇西を経て帰國の途次多分保養旅行中のヴイルヘルム皇帝と地中海上に於て會見をなすべし

仏国伊軍の示威運動

バルカン平洋

山東鉄道と伯国

三月三日

仏国大統領ルベー氏ハ本月二十四日伊国スペチア港ニ到着セベー此行五日間の豫定なるが多分ナープルスに於て壮大なる仏伊海軍示威運動催さる可しと仏国に於て豫期せらる

土耳其 ブルゲーリア間の黙契に関する覚書

聖彼得堡ニ到着ー露国ハ之を素納シタリ

山東鉄道の利害初めて膠州湾に通ずるとて

伯国大使信任

て伯帝は山東省巡撫周馥氏に対し電報を以て之が祝詞を送り周氏ハ之を謝し併せて清伯両国民の一致ハ両国民間の友情を益し永久に維持増大せしむるの媒たらんことを望み且つ伯帝の希望を実現せんが為ニハ喜んで氏が権内に於ては尽くすことを為さ可しといへり山東省ハ一般に平穏なり

三月四日

此程聖彼得堡府に赴きたる駐英露国大使ベンケンドルフ伯は倫敦に帰任し直に外務大臣ラ

ンスダウン卿と會見したり

ワルデルゼー將軍重病にて爲め健康急速に衰へつゝあり

三月五日

英國皇室公報グラニヨダニンは駐英露國大使ベンケンドルフ伯爵首尾克く露國皇室をして東方亜細亞に於ける英國の政策と調和せしめたりと云へる英國新聞紙の報道を確実なりと信ず

英露調和と吹聽

獨逸皇帝の伝言

新任駐英露國大使

清國中立態度

仏國と日露戦爭

英國外務省書記官ハーディング氏は駐露英國大使に任ぜられたり

清國直隸省の軍隊が滿洲に於ける露國兵と攻撃せべきことは豫期せられ最近の報道に依れば太の清國軍隊は既に運動を止めたりとす

佛國議院に於て議員エチエーヌ氏は極東の戦爭は一定の地域に局限せられんことを望み同時に將來に於ける日本の企圖に就て憂懼の意を

バルカン事件

ソマリーの再叛乱

殘らずインドチヤイナは今や佛国海軍に取り十分なる根據地にすらざるべからざる一層強固なる防備をなし且つ更に多数の軍艦を發遣せるの必要なりとなす前海軍卿ロックロー氏は近来東洋に於ける仏国の海軍力の減少したるを難じ此欠陥の出来得る未だけ速に補塡せらるる可きを要求したり

ソマリーランドよりの報道に依れば酋長は再び叛乱を始めたりとの報あり

土耳其改革ハ マセドーニアに改革案中外国憲兵

拐逸元帥の病状

拐逸大公の快癒

に封し土耳其士官の上に其制使権を與ふることを拒絶したり

ヴアルデルゼー元帥の病状は昨日迄の良好なりしも今日は又々不良となれり今や衆石し其効なし

先頃病気に罹りたるバーテンのフリードリヒ大公は快復したり

三月七日

獨逸元帥の死去

獨逸元帥と列国

ハルカン事件

獨領西南阿弗利加

ワルデルゼー伯死去す

三月八日

歐洲の諸新聞紙ハ皆故ワルデルゼー伯ニ対して懇篤なる哀悼の辞を草せり

アルベーニアよりハ再び内乱起りたる由の報あり

獨領西南阿弗利加ニ於て独民地軍隊ハオカハンゲヤ叛徒の功を奏し能へしに旋奔逃し軍隊に之を追撃中なり

三月九日

マセドニア叛徒

美佛新聞高

マセドニアの叛徒の首領ハブルガリア及び土耳古の両国に対し来る五月以前に何事をも企てざる旨を再び任意に約束したり

美国独相リフトルトン卿ハ佛国の新聞記者（復敎）に対し遅羅其他の東洋問題に関し美佛両国の間に更に快高傍徒せらるべき筈なりと明言したり

墺帝の外旅

墺帝の家族同伴

墺帝は来る十二日ブレメンを出發して地中海巡遊の途に就くべし西班牙のウイゴ港に暫時滞留して同國王アルフオンソ陛下と會見せらるゝ同港よりじブラルタルを經てバレアレス群島に到り夫より本月二十四日を以て于ブルスに向ひ到着の豫定なり此より詳細の旅程は未定なり

墺帝聯邦議會は一八七二年七月四日の制定に係るジエスイト派排斥法第二條廢止案を可決したり

クロパトキン出發期

露國陸軍省指揮官クロパトキン大將は来土曜（十二日）を以て極東の戰地に向け出發せる

丟

三月十一日

露國防馬令

露國は法律を發して馬匹の輸出を禁止せり

美露間の親交

從也佛國政府カノイエ、ヴイレーヲル、チーゲブラットは露國よりの報道に依り駐美露國公使ベンケンドルフ伯の使命は好結果にして美露

バルカン事件

獨西洋の會見

間に親厚なる協約成立せべき見込ありしとて
確言せり

マセドーニヤ国の憲兵問題は緊要なるものに
非らざりしも延期せるとに決せり

三月十二日

西班牙のアルフオンソー皇帝はツイイン〜ハム
皇帝と海上に於て相會せんが為め其迅船ギラ
ルダ號に搭じてヴイゴー港に向け出發せり右
ギラルダ號は獨逸帝の乘船と相接して其破

匈牙利の微兵法

旅順港への通航

獨相の旅行中止

を投ぜり

匈牙利議會に於ては政府と防衛党との間に演
劇的妥協の行はれたる後遂に微兵法案を可決
せり

三月十三日

旅順口の行通自在なることとなれ露國側より出づ
る報告之を確定せり

獨帝地中海に旅行を試みるの為め宰相ビユー

ばんかん事件

異教徒寛容

露艦の中立艦捕獲

ロー伯は其星督復活祭に於ける旅行を中止したり

土耳古、ブルゲーリア間の黙契は既に成れり

ジエンユイト教徒に対する法律第二節の廃止は今や獨逸政府の信報に依りて公表せられたり

三月十五日

露国軍艦ドミトリードンスコイは其東方に向け航進せんとする教徒の中立国商船を抑留せり

墨領西南阿非利加

米国艦隊の渡欧

墨国皇帝の帰上陸

墨領西南阿非利加の反乱は既に殆ど鎮定に帰し一千の増遣隊は之を永久的鎮撫の為めに用ひらるゝ筈なり

米国艦隊は演習の目的を以て欧州に向けんとす

ウイルヘルム皇帝は其保養旅行の途ドーヴァーに来着し同市吏員の歓迎を受ける所となれり其次に滞泊するは即ち西班牙の西海岸ヴイーゴ

モンゴイア傳言

獨帝の旅程

日墨親交と義國新聞

一なるべし

又レゴイア國オルムツツのコーン傳言は其所を辭せり

三月十六日

獨帝ウサルヘルム陛下は來る金曜日ジブロールタルに到着をるべしと雖も詳に同知事は態為なる歡迎の準備中なりと

ノウオエレシヤは日義國の調停提議は總て拔

戰時禁制品の支那

土耳其但の警戒

機者の運動なりと聲言し居れり

伊蘭西のタム新聞は伊太利羅馬よりの報道として局外中立の列國間に戰時禁制品に關する商議を開始せりとのことを記載せしも当地にては未だ何等の報道を聞知せず

土耳其但に於ける二名の義國軍團長は此頃敵彼得堡より解任せられ其本國より齎らせし訓令は動員に關せしことなりしも獨の場合に應ずるの準備を爲すべき命令なりと云ふ

墨逸帝国議会

墨逸政府の未朝

栗野公使の帰朝

墨逸の帝国議会は次の土曜日より基督復活祭の休暇を始むべし而して墨領西南亜弗利加に関する追加支出即ち同地叛乱鎮圧に要する追加支出は二百万マルクなり

三月十七日

バヴァリヤ国陸軍少佐フォン　ステフロン氏は日本軍に合せんとの目的を以て墨逸を出立したり

前駐墨日本公使栗野氏は北墨逸ロイド會社汽

墨帝と西班牙

船オルデンブルヒに搭じエノアを出発して帰国の途に就けり

公使は列国より日露両国が単独に戦争をなす可き旨の列国の宣言を有すると語れり

墨帝ウサルヘルム陛下はヴイゴーに於て西班牙国皇帝アルフオンス陛下に面会し同皇帝を墨逸海軍名誉提督に任じたり

モロッコに関しては何等の協商作られざる米国新聞は墨逸がサンドミンゴに対する西班牙の権利を買収せんと此機に際して報道せしかども是は勿論虚報なり

韓国書記官の自殺

露国の海軍拡張

読売生軍隊に入る

バルカン事件

朝鮮公使館書記官墨伯林に於て自殺を遂げたり原因は金と恋なり

露国海事高等法院長ウエツトホーエフ提督奉天に向け出発したり

浦汐斯徳学校学生は満洲の軍隊に従ふ可きしとを命ぜらるるなり

マセドーニア改革の任務を執るべき外国士官は各担任しつゝあり

敵の捕獲審検所

白耳義の爆弾騒き

伊国皇族の負傷

三月十九日

露国海軍者は其捕獲審検所をセバストポールに置き、旅順口及び浦汐斯徳に組成せり

白耳義のリーエージエに於て無政府党員の爆弾を投ずるもの多数の負傷者を出せり

伊国皇太子エマニエルは其脚を挫傷せり、ダオスタ公落馬

波及す黒死病

ポートサイドに一名の黒死病患者発生せり

匈牙利政治家の重患

匈牙利国議会反対党の首領フランシス コツスート氏重患に罹りたり

羅馬法王の演説

羅馬法王は宗務会議員に典〻たる演説中に於て仏国の宗教結社排斥に對し抗議を為所なり

バルカン事件

土耳其、ブルゲーリア間協約はマセドーニアの憲法問題の最終決定まで延期さるらしなれり

右憲兵問題の最後決定し遠〻遠のらざらん

獨帝歓迎さる

とも

ビルヒーンターに於てヴイルヘルム皇帝の同殖民地総督及び其他の官公吏に依り受けたる歓迎は頗る壮大なりし

獨逸軍の損害

獨領西南亜非利加最近の戦闘に於て獨逸軍は甚しき損害を蒙り重なる將校多く戦死し若しくは負傷せり

露国皇帝の家族別墓

露国皇帝はホルスタイン、グリユックスブルヒ家の房内に其有する獨逸聯邦オルデンブル

と大公国公使館兼の権利を放棄せり獨逸皇后の同胞ホルスタイン、アウグスタレブルヒ家のエルンスト ギユーンテル大公は同家を差し置きて斯の如き特権のグリユックスブルヒ家に與へられたるに対し抗議せり

三月二十日

獨逸領南西阿弗利加よりの報告に曰く

オイココレロ（オチムビング及びウインツクの北方に在り）附近に於てヴイルヘルムスハーフエン海上大隊附グラーセナップ少佐の

参謀部員及び三十六名の非軍人は退却中なる敵の殿軍に出会し之を攻撃したるが実然土人援軍として来り獨軍は退却せざる可からざるに至りフランソイス大尉、士官六名、非軍人十九名之に死し五名の負傷者を出し敵は二十名を失へりグラーセナップ少佐は軽傷を負へり

三月二十一日

天津駐在獨逸領事は牛莊の獨逸居留地の状勢を調査せんが為同地に赴きたり

独帝の歓迎

バルカン事件

ジブロールターに於ける独逸皇帝ウイルヘルム陛下に対する歓迎は英国皇帝エドワード陛下の特命に依る最も懇篤なり　独帝は英帝に自筆の書翰を送りて之を謝せり

マセドーニア騒乱問題に関し墺匈両国が連合して其ゝ兵とする最近の提案は土耳古に侵されたり而して右の提案は今回八直に受諾せらるゝと雖期せらるる何とかれは土耳古八千八百七十八年の伯林條約に調印したる列国の共同運動を誘起することを望まざればなり

英仏地蘭と桂公使

加奈陀の軍備擴張

英国駐劄日本公使林子爵八巴里フイガロ新聞の記者と會見したる際英仏蘭に対し多大の満足を言明したり

紐育よりの報道に曰く英領加奈陀軍隊司令官大将ダンドナルド伯は志願騎兵隊を二倍に増加せんとし砲兵隊を増大せんとし及び沿岸海軍を組織せんとを要求したり而して加奈陀議会八右の奇怪なる要求に同意せざりと豫期せらる

獨領南阿太平洋ノ更迭

獨逸国会の延期

獨領西南阿弗利加

獨逸帝国議会ハ四月十二日まで延期されたり

しかくフロータ将軍と更迭すべし

三月二十四日

明日四百名の兵卒更に獨逸国より西南阿弗利加に出発せしめらるべし其大部分ハ近衛兵より成る又ブットカメーの知事より報道する處に依ればカメルンスに於ても叛乱猖獗となり其區域擴張して遂にクロスカー附近の英領地にまで及ぼせり獨逸領にハ大佐シルシルの率ゆる海軍隊二個中隊あり直ちに之を鎮壓するに至るべし

墺国上院の停会

墺国上院にハ反對論盛にして議事の進捗困難となり為めに同院ハ停会を命ぜらる

露国侍従の派遣

露国侍従クノルリング氏ハ近日極東に赴くべし

露国内地の動揺

露国西部のドルパートに於て革命の宣言書を発布したるものあり之に関聯して数百名の學

伊国前大臣の違法の件

生ハ捕縛せらるゝなり

羅馬よりの報道に依れば豫算委員會に於て前文部大臣にして現代議士たるナシー氏の重大なる違法事件暴露し議會は其調査委員を選定せり

三月二十四日

獨逸皇帝ウイルヘルム陛下ハ其子ープルスに到着せり伊国皇帝エムマニエル陛より懇篤なる電報を以て歓迎せられたり明日西帝は

獨帝の旅行と伊国

會見をべく伊国外務大臣チットニー氏之に列席をべく南方観艦式挙行の旨公表せられたり

英国皇帝の丁抹行

英国皇帝、皇后両陛下ハ来る三十日コーペンハーゲン府に到着をべし

露国と借金説

露国ハ其公債に関する總ての風説を切る打消しつゝあり

露帝出陣せんとす

露国皇帝は来る八月戦地に向ひ出發をべき計畫なり

国王毒殺の風説

モロッコ問題

英仏協約

アフガニスタン王を毒殺したりとの風説傳はるも未だ確報に接せず

英仏間のモロッコに関する商議は引續き進行せり

三月二十五日

モロッコに関する英仏間の協商は近々明確なる決着を見る可し併し同国を分割するが如きは其計畫にあらざるもタンジールの国際問の地位も亦保持せらるべし

伊国大統領の伊国行

摩洛哥帝の旅程

仏国大統領ルーベー氏の伊太利旅行は来る四月の下半と決定し議院は右の目的に應ずる為め四十五萬フランの支出を可決したり

羅馬法王を訪問することは之なかるべし

摩帝は来る二十九日まで子ープルスに留まる可し今後の滞泊地はサーレルー、メッシーナ、パーレルモー、マールサーラー、ジャージェンチー、シーリアカサ、タオルミーナー、ターラーントー、コーフーにして其れよりメッシーナー、ゼノアに帰来す可し

獨帝ロイドと電

換及にハ赴くざる可し

獨帝ハ北獨逸ロイド會社理事長ヴイーガンド博士に打電して同社船ケーニツヒ アルベルト號の善事なる管理、取扱、(先水)業内並に乗組員の品行良好なるを称揚し今度の機会に依り再びロイド会社の乗客が受くる取扱の完全なるを見たりと曰へり而して帝ハロイド会社理事長ウイーガンド博士、社長ゲオ ブラテの両氏に二等赤鷲勲章を授けたり

三月二十七日

長崎水雷艇買入説

英仏間殖民地協約

エルビングのシフクウ船渠が称せる所に據ハバ長崎に水雷艇の賣渡さるゝことと更になりとゝふ

英佛間の殖民地協約ハ南方暹羅印度に至うで右協約ハ多分暹羅に関係を有せざるべく換及をロフコに於ける双方の利益を協定し西阿非利加に於ける双方殖民地の境界を劃定しニユーフオンドラドに於ける漁業権問題を設定せんとするのなり

伊国と羅馬法王との関係

羅馬法王延に派せらるる伊国大使と今回召還せんとの議巴里に於て協議中にして宗教の事に関し伊国との間に締結したる羅馬教会の條約も亦之を棄廃せんとする模様なり但し條約廃棄の一條は多分実行を見るに至らざるべし

伊両皇帝の会見

三月二十八日

ウィルヘルム皇帝はナープルスに於て其遊船ホーヘンツオルレルン丸に伊太利のヴイクトル エマニエル皇帝を饗應せり伊国皇帝は

阿弗利加東岸の颶風

長岡戦隊の部署

其乾杯に當りて三国同盟は殆ど平和の最も堅固なる保障なりとし皇室及び各巻なる栄誉国民の健康を祝せヴイルヘルム皇帝は之に答へ三国同盟は国民の精神に深く彫り付けらるる蓋し其義務は確実に果さるる居るを以てなり と云ひ皇室及び其勇敢なる陸軍 その光栄なる海軍 熱情深き伊太利人民に対し健康を祝して乾杯せり

颶風リエーニオン嶋に災害を與へり

クロパトキン将軍吟爾廣に着せり

新疆仏協約

アレキンーフ總督ハ將軍の居宅とし便利の場所を選擇すべき旨命せらる

クロパトキン將軍ハ陸軍の獨立司令官に任ぜらるマカロフ提督ハ海軍の獨立司令官に任ぜらる

三月二十八日

殖民地に関する英佛の新條約ハ今や脱稿したり多分基督復活祭と以て平和の行厝として之を聲明せらるならん

歐洲の政局

伊國議会と獨帝

全歐洲の形勢は未だ嘗て多く見ざる所の安穏を呈せり即ち伊太利の度々行はるる異常なる親獨示威運動は其結果として伊國に有力なる感象を與へ土耳其はマセドーニアの憲兵制度問題に関する列國の要求を容れハルカン亦春期に入りたれども之と昨年に比られば危險更に少なきが如しと而して歐洲各地の取引所ハ全く其沈静を恢復せり

伊太利皇帝ヴィクトル エマニユーエル陛下は獨帝ウィルヘルム陛下に向ひ伊國議会ハ全院一致を以て目下伊國沿岸に清国せらる獨

牛莊の戒嚴令問題

帝に對し尊敬、嘆賞を言明せることを可決し
たりとの電報を發し獨帝は伊獨兩國の善意を
增進せる右の行動を以て大に滿足せる旨答電
したり

三月二十九日

牛莊の戒嚴令は同地が清國の中立地域に非ざ
ることを証明されたる後に於て布告せられた
り聖從得堡にては露國が同港を以て中立地を
なりと宣言せり

獨逸の艦艇賣却問題

牛莊戒嚴令問題

獨逸が露國に軍艦廣艦を賣却したりとの新聞
記事は根據の陰だもなし

三月三十日

牛莊は滿洲の一部なりと認められるを以て露國
が之に戒嚴令を布告したるに對しては中立國
等より何等の行動を執るに至るべき模樣な
り

羅馬法王対仏国

巴里新聞タムは羅馬法王の宗教反対政
策に関し云々せる所ありたるに対し仏国政府

米国大統領選考慮想

羅馬法王廷に致したりと云へる激烈なる抗議書なりのと発表せり

羅馬新聞オッセルバトールは斯の如き抗議更に法王に致さんとするとなしと称せ

ルーズヴェルト氏再選の様望頗る良好なりと

伯領西南阿非利加事件

西南阿非利加の伯領軍隊に無へられたる訓令中に於て戦闘手人道を守るべしとの命令下さる

ヘレロ族はオビトコレロを撤退してオングラ

遠西中立と英国

ゼナツプ佐之を占領せり

三月三十一日

境界地方に張大なる軍隊既に到着したるを以て英国は清国中立破棄の危険既に殆ど消滅したりと認む

牛莊戒厳令と列国

牛莊の戒厳令施行は強物の新聞紙にして手静に傳へらるるに賞美米三国の間に葛藤を生ぜんとせり

英国皇帝ノ丁抹行

佛国議会

伯爵帝ノ健康

美国皇帝及び皇后の両陛下ハ皇后陛下の父君たる丁抹皇帝ノ誕辰（四月八日）祝賀會に列せらるゝコペンハーゲンに着せり

仏国海軍卿ペルタン氏ハ仏国下院に於て其信任投票を得たり

巴里新聞フイガロの稱する所に據れば英佛間條約の條項ハ議会の同意を経ざるべからざるが最終決定ハ数週の後なりと云へり

巴里新聞マタンハヴイルヘルム皇帝病気再興の虚報を傳ゑたれ皇帝ハ頗る壮健なり

明治三十七年四月分

伯林電報集

バルカン事件

英露の提携

四月五日

英露両国ハ亜細亜并ニバルカン事件ニ於ケル
總テノ境界問題ヲ一般ニ設定セル旨ノ協議
ヲ開始シタリ佛国新聞紙ハ絶叫シテ右ノ協議ニ
関スル報道ヲ掲出シ一つ一つ故ニ西藏ニ於テ
教皇ノ戦開ヲ為シタリトノ報ハ英露ノ関係ヲ対
シ何等ノ眞面目ナル影響ヲ與フ可シトハ想像
セラルベシ

マセドーニアノ新設憲兵隊ノ將校ハ其出発ヲ命

ぎ 長少ギオんギス 將軍はサロニカに寓居を
構ヘ而シテ土耳古ブルゲーリア間の拠点ハ其本
文々び署名の未だ確定せざるを除きては略ぼ
完成したり

將来の迅洋艦型ハ艦四隻を貴国に責却したり
と云ふ独逸へうルドの報道は従前行はれたる
見ての此種の虚報と異なりく全く無稽なり

將帝ウイんヘルム陛下ハ目下シシリーに閑遊
シつゝあり帝は屢ゝ内地に旅行を試み其都度
民衆より熱誠なる歓迎を受く

將来シシリー

迅洋艦を貴国へ

四月六日

巴里新聞紙タムは貴国ボールチック艦隊動員
せられたり其東洋に向け出発せるは七月十五
日なりと聖彼得堡来報を掲出せ

モロッコ王に対する公債巴里に於て契約せら
る可し

四月八日

モロッコ公債

ボールチック艦隊動員と出発

西班牙国王ア[illegible]難

蒲伊電信協約調印

墺伊外相ノ會見

西班牙国王アルフオンソ陛下ハバルセロナノ博覧會ニ行幸ヲシテ還幸ノ際博覧會ノ出門ト殆ど同時ニ突然爆弾破裂セリ陛下ニハ幸ニシテ毫も無難なりしも農夫二名其場ニテ負傷し一人嫌疑を受けて捕縛せらるたり

柴棍とボルネオの西海岸との間ニ布設せらるべき海底電信ニ関し佛蘭西和蘭の間ニ協約調印を終ル

数日来ニアムステルダムニ於て墺洪国外相ゴルホウスキー伯と伊国外相チットニ氏との會見あるべし右ハバルカン問題ニ関し両国の間ニ意見の一致せざるしのちとの風説を打消し兼て通商上並ニ政治上ノ會商を遂げんが為なり

モロッコ問題と美佛協商

佛国新聞の半官的に報道する所に據ればモロッコ問題ニ関する美佛新協約ニ於て佛国ハ地中海に面するモロッコの海岸に砲壘を建設するの權利を永久に放棄せりという

佛国政府と羅馬教皇

佛国外務卿デルカッセ氏ハ佛国政府の対羅教政策を多少譲和せるイ意ヲ大流領ルクベエ

丁抹国誕辰と
獨逸皇太子

氏ハ羅馬法王を訪問せんとせしも其
代りに法王廳の大臣たるメリー、デル、ヴア
ル僧正と会見せるとのなるべし

獨逸皇太子殿下ハ丁抹王クリスチヤン陛下の
誕辰祝賀式に参列せんとコツペンヘーゲンに
到着せられたり

露国遠征隊

露国の西藏遠征隊ハギヤンツエに向け行進中
なり

露国軍費の財源

露国の後菓節減額ハ一億三千四百萬留に上れ
り此内五千四百萬留ハ鉄道敷設費に属するも
のなるも露国ハ今日此外に内債を募集し補
ふらざる分ハ外国公債を以て之に充つるな
らん

我

普国皇族の作怪

普魯西カフレデリック、レオポルド親王ハ自
動車にて伯林の市街を通過中他の馬車と衝突
して腹部の骨を挫折し大学教授ペルケマン博
士の施術を受けたれども博士の語る所にれ
ば作生命には別條なかるべしと

四月十日

清国中立と米国

英仏新協約の内容

米国政府ハ夜国大使クニー伯の質問に対し米国政府ハ堅く清国の中立を確信する旨を言明したりと雖も米国は戦争中満洲駐在の領事を引揚せしめざるべく既に任命せられたる領事事ハ北京牛荘及び上海に滞在すべし

モロッコ、ニューファンドランド西阿弗利加暹羅、及びニューヘブリッド等に関する英仏新協約ハ何なるものなる調印せらるべし 仏国ハモロッコを其保護国とせざることを約したり但しモロッコの財政ハ仏国に於て之を整理すること及び今後世年間ハ自由貿易を実施せるの規定あり而して此協約に於て英国ハ暹羅西運河の中立に関する仏国の提議に同意したり 埃及の国債整理局ハ依然存続せらるべし 猶英国はマダガスカルに於ける仏国の関税政策に対する抗議を撤回せる諸条件なり 新協約ハ暹羅の領土保全に関する規定をも含まれ而して英仏両国ハ此協約の実行に関し相互に助力をべき旨を誓約したり

土耳其とブルガリアの協約ハ調印す 手續を終りたる之に依り本月春夏の交に発生せべく豫期

佛国政府と羅馬法王

せらるゝに至りては漸く除去せられたり
と思考せらる

佛国外務卿デルカッセ氏が仏国の僧侶排撃政策を緩和し旦つ大統領ルベー氏が伊国皇帝を訪問する時を以て法王庭の大使メリー、デル、ゴアル僧正と會見するに関し法王庭と交渉を開始せらるゝ風説は事実無根なる旨巴里より報道せらる

ウイルヘルム陛下はシレリーを出発してマルタに向はせらる獨逸皇太子はコブレンツへゲ

獨逸皇帝と白耳義

ンに於て怒切なる待遇を受けつゝ今稿を同地に滞在せらる

四月十二日

墺伊の平和

英仏間の協約は獨逸の新聞紙に於て穏に論せらる

墺伊両国外務大臣の協約は獨逸伊両帝の会見、曰く墺伊両国外務大臣のアバッチーア会商、曰く英佛協約、曰く土耳其デルゲーリア協商又バルカンの戦闘は今や全く避けられたるもの

美国の獨帝歓迎

獨領西亜兵利加

なりと思考さる

モールタの美国政庭はエドワード皇帝の特命を受けし盛にウイルヘルム陛下を歓迎せり

フオン グラーゼナップ伯はオカハルニー附近に於てヘレロ族を撃破せり獨兵三十二名しの役に戦死す尚はオカンジラに於て三千挺の施條銃を有するヘレロ族主力との間に八時間に亘る他の戦闘あり敵は二回襲撃し来りたるも二回とも之を撃退し其陣地破れて敵兵潰走せり獨逸側の死傷者は将校二名兵卒二名

ブルゲーリア王の旅行

英佛協約と露国

露国遅行案

なり

四月十三日

ブルゲーリアのファーディナンド王は出でゝ土耳其帝を訪はんとせバルカン問題に関する新保証は之に依りて得らるべし

在巴里露国大使は一等書記官ヨリドフ氏は英佛協約に対し公然その満足を言明せり

新内閣運行法案 善魯西国議会に提出さる其開

費額ハ七億マルクなり

四月十三日

獨逸宰相ビスマルク伯ハ帝国議会に於て外交に関する一場の演説を為し更に他の諸国に対する何等の企畫を有せざると曰ひ露戦争に関しては獨逸ハ世界的大戦争を回避せんとして極力努力したりと雖も此の故に獨逸は清国の中立に同意したりと反対党は獨逸は日露開戦あるに及びて喫驚したりと稱するも其実聖彼得堡所に巴里に於ける各国使臣殊に

右西地に於ける日本公使より一驚を喫したるなり或人ハ獨逸の衆天觀を批難するも若し開戦に先ち吾人が悲觀を示したりんこハ我国ハ吾人を詰責するに戦争の陰謀あるを以てしなるならんと論じ次で南西阿弗利加領地に於ける獨逸軍の行為を認識し政府ハ敢て再度せしめざる様出来得べきもての方策を採りつゝありと言ひ殊に昨年ビエンエイトの教法法の第二條を廢止したるは第教党に対するバックスタイ的政策なりとの批難を駁撃し

西班牙首相ト襲印

バルセロナに於て西班牙首相マウラ氏を攻撃したるの出来事なるものの報告を以て首相を襲ひたるも首相ハ負傷せざりき

仏国名将の謹意

フアフレヨツ事件の重者たる仏国のマルシヤン大佐辞職を願出でたり

西国首相刺殺の説

バルセロナよりの別報に依れば西班牙首相マウラ氏は短銃を以て刺殺されし形跡あるも外多数の人嫌疑を以て獄に投ぜられたりとあり

キリン太公の奏体

四月十四日

聖彼得堡よりの未報に「キリン」太公露国戦開艦ペトロパウロスク跡ハ自国ノ布設したる水雷に掛りて爆裂し之に乗組み居たる「キリン」太公ハ負傷発熱し春天に達したり

移住移民の損害

樹連移民大臣スフーベル氏ハ南西阿非利加に於て叛乱の為め殖民者の被りたる損害を賠償せしに七百万盛ラントを要すべしと曰へり

美露と西蔵関係

美露の西蔵に関する交渉ハ当分之なかるべし

米艦内の危変

獨逸宰相の演説

米国戦闘艦ミツソリー號の一大砲爆発し乗組員二十六名死せり

獨逸宰相ビユーロー伯八帝国議会に於て社会党首領ベーベルの演説に答へて獨逸が清国の中立に抜因したる清国政府自身の希望に應じたるものなり日本亦清国の中立を以て満足なりと曰へり交戦国に対し私人が船舶を賣却するは国際公法の争闘に非ずと雖も此問題い疑義ありと宣言し再びベーベルの言に対し獨逸は孤立せざ獨逸い一般に孤立を恐るるの必要なりと曰へり

四月十六日

マカロフ中將の後任として黒海艦隊司令長官スノリドルフ中將太平洋艦隊司令長官に任せらるるなり

度国伝軍の新司令長官

キリール大公の容体

キリール大公は其後容体良好なり

四月十七日

獨領西南阿弗利加

獨仏主権者の意見

英国の西藏遠征

獨逸領西南阿弗利加に於て「ヘレロ」族との間に
オカワムバ附近に於て新に戦開ち獨軍勝
利を得たり「フオン、バケンスキー」大尉及び兵
卒五名之に戦死せ

仏国の新聞紙ハ「ウイルヘルム」皇帝と「ルー
ベー」大統領との間に會見あるべきを報ぜ全合
紙内に於て相見るべき都合となるべし但し何事
ハ未だ決定したるにはあらず

ヤヤンフエに達したる英国の西藏遠征隊は既
に其商議を開始したり右遠征隊の更にうつサ

心カン事件

日露の戦功と獨逸

に進發せんとす而して一に係て右商議の結果
にあり

土耳其ハ動員したる其兵を陸隊に居れり「アド
リアノープル」及び「サルニカ」の後備師團ハ既に
解放さる

四月十八日

獨逸新聞紙ハ東郷司令長官の報告に對する諸
軍部内より出でたる多数の評論を掲載せり
之に依て日本戦術の成効を承認せり

露国陸兵の退却

聖彼得堡発の電報によれば露国軍隊は奉天遼陽間の鉄道線路に向け退却せしめらるべしと云へり

皇帝の帰国

ウイルヘルム皇帝は其コルフユー帰行を見合せ暫時しばらく帰海軍と滞留する事とせり

英国とボールケンの抵抗

四月二十日

エドワード皇帝の親善の意を表して長くコーペンハーゲンに止りたるに為ボールケンの

露国の仏国公債

ク海の英国により威迫されたるを恐れたるの念を丁抹に散ぜしめたり

露国は其巴里に於て公債を募集せんとせるの風説を取消せり

英国と西蔵問題

英国は西蔵既に露国の助力に依るべからざるを悟りたるを以て之を根蔕外に容易なるべしと信ぜられり

清国の中立問題

清国は中立を破りたるとして新聞紙にて報ぜられたる公報は之を打消せり

旅行中の独逸皇帝

ウィンヘンム皇帝は木曜日（二十一日）アビエーリア（伊太利）のベーリーに着する若なり

匈牙利の同盟罷業

匈牙利に於て鉄道の事務員同盟罷業と行き交通杜絶せり

果して解せざるの

四月二十一日

アレキシエーフ提督辞職の風説否認せらる

敵方の従軍記者

露国側よりせる従軍記者は奉天及び遼陽に赴くを許されたり

美国皇太子の旅行

四月二十二日

美国皇太子ウェールス親王は独逸にフランレス　ジョセフ皇帝を訪問し最も鄭重なる祝盃の交換行はれたり

露国の巴里公債

巴里よりの報に據れば露国大蔵証券八億フランを巴里に賣出されたり右利率は五分にして五箇年後巴里銀行及びオッタンゲー兼社を経て

償還さるゝ筈なりとそ

日本運送船ハ直隷灣に向かつて多分牛莊を攻撃せらるなるべしと露国側の報道にいつる

四月二十三日

露国商業電報局ハ露国新聞ノ少オスの通報を世間に流布せしめ居り即ち其報に依れば黄人患の益々盛ならんとせるより英国ハ露国の為めに仲裁を試みんとせと云へり

露国の仲裁説

敵の牛莊顧慮

スクリドルフ提督ハ五月三日東方に向け艦隊を得堡を出発せる筈なり

露国防禦の長技

独逸エルビングのシカウ造船所より露国に八隻の水雷艇を賣渡したりとの説は虚構なり

独逸水雷艇賣渡説

独逸皇帝は五月一日ヴェニスを経て伯林に帰国せる筈なり

独逸帝の帰国期

独逸帝国議会ハ討論を用ふることなくして膠州湾経費予算を可決せり

独逸の膠州湾経費予算

獨逸政府鉄道の收入

墨國公債の調談

獨帝の帰国

普魯西国官営鉄道は昨年度中（千九百三年四月より千九百四年三月に至る）に於て一億百萬マルクの純益を得たり

四月二十五日

八億フランの墨国々債募集はブラッセルス府に於て契約せられたり伊国并に白耳義の銀行は之が任に當る可く獨逸人之に與らず

獨帝ウィルヘルム陛下はシロッコの暴風の為め地中海旅行より陸路獨逸に帰国したり

伊佛の好情

帝はジェニスより「ミラン」、セントゴットハルトを経てアルサス州なるシュレットスタットに赴きたり「ケーニヒスブルヒ」（此程回復せられたる「メロヴィンジアン」の古城）を見舞ひ更に進んでカルルスルーヘに到り葦桐ビユーロー伯は同地に於て帝に會せり

伊国大統領ルーベー氏は羅馬府に於て親昵なる歓迎を受けたり外交家の思惟する所に依れば今回の旅行は数年来存立せる伊佛調和を更に確実にするものにして新なる條約は豫期せられずと

社會党の騒擾

ブロツスウアールバーベンに於て社會党と憲兵の間に爭鬪起り憲兵發銃一二十三名の死者四十名の負傷者を出せり

獨逸鉄道の状況

獨帝ウイルヘルム陛下は政府鉄道が昨年好況を示したるを以て鉄道役員救濟會に三百萬マルクを支出を可しとの議案を普魯西國會に提出を可きを通信大臣ブツトキに并に大藏大臣ラインバーベンに命せり

匈牙利同盟罷業止む

匈牙利の鉄道同盟罷業は政府の不撓なる手段を採りたる為め既に鎮壓せられたり

佛伊西元首の会合

四月二十六日

四羅馬に於てルーベー大統領とエマニエル皇帝との間に交換されたる乾杯辭は頗る鄭重なりし但し佛伊西國の親交を欲せるものにして未だ遂ぐと認められざる三國同盟の擁護者等に之に對して若干の理由を有せざるなり

英國と仲裁説

英國外閣は仲裁を答うとなすに就て頻に

高国の意図を窺ひ居りしも支国新南政府断として其説を斥けり

四月二十八日

日本より當地に来る報ハ凡て日本人民の大勝なるを称し其戦闘を継続せんとする確固たる決心を有せるを告ぐ

日本民心の堅固

佛国ハ巴里に於て其公債に應募せる代償として支国に政治上の譲與を要求したり

佛国公債と其代償

楊逸の取消

楊逸エルビングカシカウ造船所ハ同造船所より支国に水雷艇を賣渡したりとの説ハ虚妄なりと道言せり

楊逸ハ取消

西南阿非利加に於ける楊逸軍隊ハ甚だしく窒扶斯に悩み居りし之が為め新軍隊本国より發遣さるべしゲユル大佐また病に帰国せしもぞるべからず

西南阿非利加

佛国の船員四艘

マルセーユ及びハーブルに於て佛国商船の船員同盟罷業を行へり

獨逸汽船支那へ打消

露国と近衛

四月二十八日

露国が巡洋艦に改装せられ且つ日本の商業を妨碍するが為めに使用せらるる可き獨逸汽船九隻を購入したりと云ふ日本に送られたる ロイテル電報は正しからざるも少数の商船は間接の方法を以て露国の手に渡るべし然れども専門家は右の汽船は軍艦としても適当ならざるべしと

スミルナに於ける出来事即ち希臘領事館書記殺害侮辱を受けたる問題は露国の仲裁に依り

獨帝と時局

落着せり

露国は コーカサス地方に於ける影響を蔑視し下アーミニア問題の漏洩を防止しつゝあり

マセドーニアは静穏なり

四月二十九日

獨帝ウイルヘルム陛下はカルルスルーヘに於て市長の歓迎に答へて政府の平和は維持せらるべきを希望せられ 剣下の形勢若し必要あらば 此れは獨逸は世界の政治上に於ける 獨逸の地位を保持せらるる為め其資金を集中し且つ同心

一体と考らざる可らざらしむるものなるし
とを述べたり

夜国ハ其外国ニ於ける代表者と通じて外国干
渉の風説が根據なきこと并ニ戰後夜国が其何
国たるを問はず外国と一切日夜交渉に干渉せ
しむることを答さゞる可きを宣言したり

伯林電報集

獨領西南阿非利加

五月一日

獨領西南阿非利加ニ於テハ豪雨ト窒扶斯病ト生ヒタル者ニ依リテ人員ニ対スル戦闘ハ一時之ヲ休止セラレタル至リタリ

病兵補充ノ為メ援兵発遣サレタル者なりと雖モ司令官ヲ更迭セラルヽことハ之れ亦ざるべし独逸政府ハ「イトウアイン」提督ニ好ク土地ノ事情ニ通ズルヲ以テ一切ノ任務ヲ挙ケテ之ニ委附セラルヽヲ可なりとし敵兵ヲ鎮圧セラルヽニ於テ其認メテ必要トセラル所ハ尽ク之ヲ行ハシムル

露国公債と倫敦

敵の陸戦報

に泥せり

倫敦の銀行筋等ハ露国公債発行の故を以て露国領部の同国外に注出たべきを豫期し其特に倫敦に入り来るべきを想像し居り

五月二日

聖彼得堡に達したる公報に據れハ曰く露国軍隊ハ日本優勢軍隊の攻むる所となり大損害を受けて枝隊陣地に向け九連城及びシヤンホサンを退却せりおつしヤウポ及びチエンエリへ

露国新造艦の出没

全欧あと清朝

ン（更に北方）附近の戦闘ハ尚ほ継続せり

五月三日

露国戦闘艦オーレル號ハ子グア河に於て捕沙したり

（オレール號ハ一萬三千六百噸を有し一昨年進水式を行ひ翌年に本年の落定にして豫て東洋に派遣せらるゝの計畫に属せるもの なり）

日本最近の勝利ハ全欧州を通じて大に感動を

露仏同盟の始末

閉塞不成功の説

差起しつゝあり

ジョーナル　ヂュ　聖彼得堡ハ露佛同盟ヲ休止セベキモノ憂ナク同同盟ハ従来ノ如ク依然トシテ存在セリ可ラスト宣言セリ

五月四日

旅順口閉塞豫ニ関スル聖彼得堡来報ニ曰ク此計畫ハ成功ヲ見ズ港口ハ自由ナリ八隻ノ日本商船ハ破壊セラレタリト

我陸軍の勝利と政府

日本公債応募の申込

日本ノ鴨緑江ニ於ケル勝利ガ政府ニ與ヘタル印象ハ甚ダ深ク其機敏ナル攻勢的戰術ハ各国ニ於テ認識セラル獨逸隨一ノ新聞紙ケルニシェ　ツァイツンガハ海軍ト協同シタル日本參謀本部ノ機敏ナルヲ切述シテクロパトキン將軍ノ公報ハ露軍ガ大損害ヲ蒙リテ鴨緑江ヨリ退却シタルコトヲ確認セリ

巴里ヨリノ報道ニ依レハ偏敷ニ於テ六分附日本政府公債ニ對シ稅関收入ヲ擔保トシ價格九十三円ニテ一千万磅應募セリ可シト横濱香港上銀行ノ手ヲ經テ日本政府ニ申出ヒタリトイフ

敵艦隊の新司令官

清国の宣言

南米の戰雲

露国海軍中將ベゾブラゾフは露国太平洋第一
艦隊司令官に、海軍々令部長大將ロジエジエス
トヴェンスキーは新に編制せらるゝたる露国太
平洋第二艦隊司令官に就任し任命せらるゝ
聖彼得堡駐劄清国公使館は本国政府の訓令を
奉じ清国中立に関する宣言を発し宣言は
粛々たる世評を鎮静するの目的に出づ
ブラジル共和国は秘露共和国に対し軍隊の動
員中なり

南阿横逸司令官

藝術家の危篤

フロータ中將南西阿弗利加駐屯横逸軍指揮官
に任ぜらるゝ近々千五百の援兵を率ゐて横逸を
出發す可しロイトワイン大使は依然知事として
留任しフロータ將軍の到着するまで軍隊の
指揮權を有す

横逸畫家フランソ
ワ利詩人モーリツ
篤なり

フオン　ベンバハ及び匈
ヨーカイの両氏は共に危

五月六日

露国敗戦に落膽す

日本の船舶購入説

新領行幸見合せ

露国の軍人社会に於ては露国砲兵が九連城に行なたる功績の少なるに對し頗る失望したる旨みな言明し居り

新聞紙の報ずる所に據れば日本は東亜に通航し居る北獨ロイド会社汽船八隻を購入せんとして運動中なりと云ふ

ローレーン伯アーヴィンに獨逸皇帝当春季行幸の計畫なりしも同地方窒扶斯病流行の故を以て之を見合せたり

印度地方の風害

ルーズヴェルト同盟

獨領西南阿非利加

艦隊東亜巡遊更迭

支那に大風あり甚だしき損害を生せり

米国に於ては獨米ルーズヴェルト同盟なるもの組織されたり

獨領西南阿非利加の報に據れば土人は北方に向て退却中なりと云ふ

獨逸東亜艦隊乗組員中任期満了したるものに對しては既に更替員キールより出發せり

オ子總督の妙計

伊國議会

ヴェネズエラ大統領

墺國貴妃の病

五月六日

アレキシーフ提督ハ旅順口を出発せり

伊太利議会ハ逃亡したる元大臣ナシー氏に関し調査委員会を催したり

ヴェネズエラ國議会ハ大統領カストロー將軍に一年間の專制權を與へたり

元の墺國皇太子妃ロンエー伯爵夫人は重患に罹れり

匈國詩人の死去

伊國大統領候補者

和蘭女王の不例

匈牙利國詩人モリツツ ヨーカイ氏死去せり

五月八日

伊國新聞紙ハ羅馬駐劄佛國公使カミーユバレール氏ヲ伊國大統領の候補者に指名せり

和蘭女王ウイルヘルミナ陛下は耳病に苦しみつゝあり

普魯士の運河案

聖路易博覧会の獨逸部

獨逸美術家の訴

法王討伐国同盟

善魯士州会に於てライン、エルベ運河案に関し劇烈なる討論起り今回は其通過の望絶前に比し些か良好なり

聖路易博覧会の獨逸部は正式に開会したり

有名なる獨逸の畫家フランツ　フオン　レンバハ氏死せり

伊国政府は大統領ルーベー氏の伊帝ヴイクトル　エムマニユエル陛下訪問に對する羅馬法王の抗議を拒却したり

獨逸の露国公債

バイカル湖近況

ブルガーリアと獨逸

五月九日

新露国公債獨逸に募集さるべしとの風説流布

地に行はるゝは在ハ虚聞なり

バイカル湖には目下碎氷船運轉され居り

ブルガーリアと獨逸との間及び両王権者の間に関係の改善したる表徴としてブルガーリアの外交代表者伯林に派遣さるゝことなるべし

伊国前大臣の求刑

伊国議会ハ前大臣ナシーボを不法行政の故を以て求刑せんとなるに決せり

獨逸とサーヴィア

ベルグレード在勤獨逸公使歸任せるや否ハ未定なり

獨逸の銀行合併

五月十日

獨逸銀行ハ伯林銀行買收の目的を以て其資本擴張の為め新株式二千萬マルクを發行せり其價額ハ額面二倍なり

ドレスデン銀行ハ亦獨逸但合銀行を買收せん

日墨両国の外債

日本の勝利と獨国新聞

となる

四厘に於ける墨国大藏省證券の發行價格ハ九十九なり

日本の新公債ハ二分七厘五毛の割引を以て倫敦に賣出されたり

歐洲大陸の取引所ハ日本勝利の結果により沈衰せり

五月十一日

獨逸新聞コロローレガゼットハ日本軍の攻撃的

獨逸議会と宰相

戰術の結果を称揚したる記事を掲載し其沢戰は奉天附近に於て起るべきと豫期せり又露国に於てはクロパトキンに對し其戰略の過失と激しく攻撃をるに至るなんと評論せり

獨逸帝国議會に於て社会党の主領べべーるの演説即ちウイルヘルム皇帝がペトロパウロスクの訪問に對し露国皇帝に弔電を送りしハ日本に反對をるに非ざるのとの演説に對し宰相ビューロー伯ハ皇帝の弔電ハ日本反對を意味せぬ單に仁義心より出でしに外ならずと答へ南阿宰相ハ西南阿弁利加に軍隊派遣の事情と

露国の退陣

露国内務大臣

露国内の陰謀

論じ且つ黒奴虐待に對する白皙人種攻撃演説に對して殖民大臣スチューベルハ人道を重んじ婦女子に對しては最も注意を加へ虐待の事実なしと辯じたり

アレキシーフは其本營をハルビンに移したり

露国内務大臣プレーヴエ氏死去したり

露国に於てハペトロスブルグの附近に於てクロンスタット要塞を爆發藥を以て破壊せんとの陰謀露顕したり

米国と日本公債

紐育に於ては九十三パーセントの日本公債を應募せん者り五百萬磅のシンジケートを組織したり

露国の軍隊撤退

露国は其六箇師団に動員令を發したり

スタンレー氏死去

西部利加探検者スタンレー氏死去せり

獨逸と南米騒乱

五月十二日

四隻の獨逸巡洋艦東方亜米利加に向ひ航海中

トーゴー鉄道

に在り彼等は特に〜ーチーの領海を訪問せん

とせしに同地に騒乱起る可きを以て獨逸の国

旗を翻さんが為なり艦隊ポート アンプ

リンスに集合せる等なり

獨逸帝国議会：阿弗利加トーゴー鉄道建設費

を国庫金より支出せるを可決したり

獨逸財政改革案

聯邦議会は帝国議会を通過したる帝国財政改

革案を容認したり

銀行へ資本増加

プルシアン ビーハンドルング（銀行）は其

資本金三千五百萬マルクを一億マルクに增加する計畫なり

五月十四日

清國軍隊の增發

コローンガゼットは清國の動員に關して下の報を發表せり

歐羅巴露西亞より步兵四個師團の外に步兵八十個大隊、騎兵三十六個大隊、砲二百七十八門東方に向け進發せんとせり露西亞軍團亦增員されたり

獨領西南阿非利加

獨逸第三皇子

砂糖と清國中立

獨領西南阿非利加事件のイドグアイス大佐ハ辭職の意ありとの風說を打消し大佐ハ進んで殖民地軍隊指令官にフオン トロータ中將を助力せべき旨宣言せり

新聞紙の稱する處に據れば目下清國にある獨逸皇帝の第三皇子アダルベルト親王日本に旅行かべしと云ふ

砂糖の中立諸國八日本連勝をうけ聊か清國の中立に關し疑懼の念を抱くに至れり

露国艦隊の活動

黒海にある露国艦隊ハ就從を命せられたり今石炭の積入中なるべし

河船利加電族

ヘレロ族ハ北方に向け退却中なり

フランスヨダ更放

仏国内閣書記ハ マンシヤン氏の辞職を聴許せり

露国と牛莊

露軍ハ牛莊撤退中なり

米国の活動

米国軍艦七隻米国の利益を保護する為め芝罘回航を命せられたり

日本公債応募高

五月十五日

日本公債ハ其應募高三十倍ニ上ル

亜丁の流行病

アデンハ傳染病流行地と宣言せられたり

露国と英仏協約

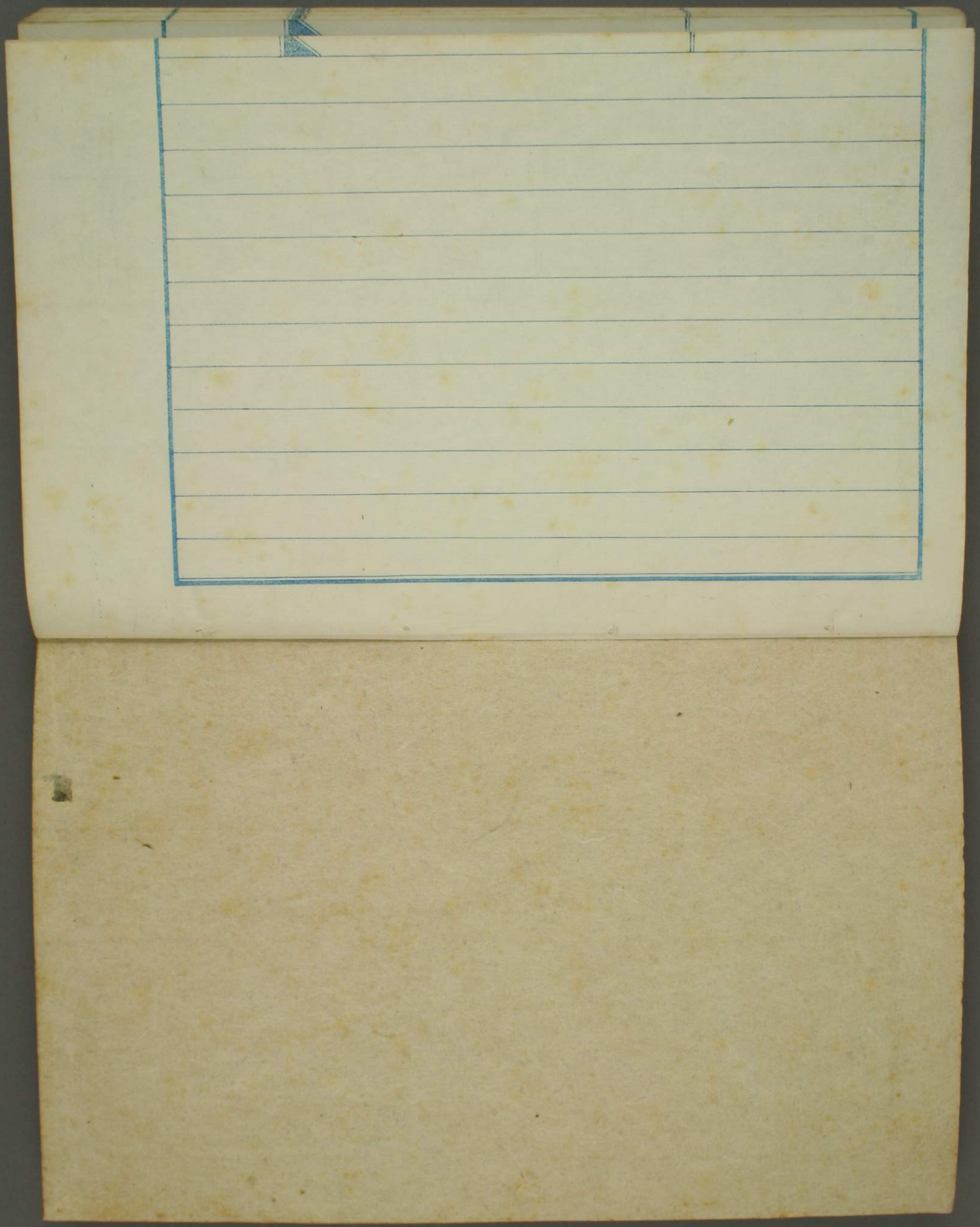
露国ハ埃及に関する英佛條約を承認する旨宣言したり佛国内閣会議ハ露国政府ニ向ひ最深の謝意を言明を可き旨外務大臣デルカッセに命令したり

楊逸の賛日本感情

両国王の會見

楊逸埠頭と英国海軍

伊国新聞紙ハ伯林に於て賛日本的感情の増加したるを報道せ

遠からざサーヴイア国ニツシユに於てサーヴイア国王ピーターとブルゲーリア国王フエルデナンド公との間に會見行はる可し

楊逸の埠頭の英国海軍の注文品に依りて全然白撫せらるゝの社會党新聞紙の唱ふる所ある報道ハ全く無根なり